

図 21.39 老人性血管腫 (senile angioma, cherry angioma)

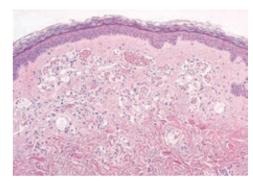


図 21.40 老人性血管腫の病理組織像

る. とくに生後6か月を過ぎても増大して潰瘍をつくるものや 口唇に生じたもの. 眼瞼に生じて視野障害を起こすものなどに

ステロイド全身投与などが考慮される.

2. 老人性血管腫

senile angioma, cherry angioma

鮮紅色の光沢のある点状の紅色丘疹が、体幹に多発する. 20歳代からみられるが、加齢とともに増加する. 反応性の血管増殖が原因と考えられており、病理組織学的に真皮乳頭下層に毛細血管の限局性の増殖がみられる(図 21.39, 21.40).

対しては積極的な治療が必要である. プロプラノロール内服.

3. 化膿性肉芽腫

pyogenic granuloma; PG

*

同義語:毛細血管拡張性肉芽腫(telangiectatic granuloma)

症状

外傷などが誘因となって生じた,毛細血管の増殖と血管腔の拡張を主体とした血管腫の一種.直径数 mm ~ 2 cm の半球状に隆起した有茎性で鮮紅色から暗赤色の軟らかい腫瘤(図 21.41).外傷により容易に出血,潰瘍を形成する.新生児では臍部に生じることが多い〔臍肉芽腫(umbilical granuloma)〕.

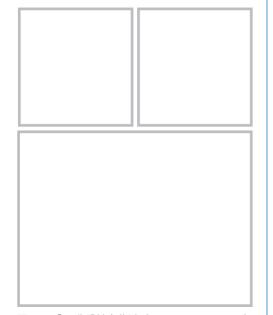


図 21.41① 化膿性肉芽腫(pyogenic granuloma) 有茎性の鮮紅色から暗赤色の軟らかい腫瘤.